

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 215

2010年

7～8月号

行 事 案 内

7月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 7月11日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 夏真っ盛りでの探鳥です。手賀沼には水鳥の幼鳥、葦原にはオオヨシキリの囀り、セッカにヨシゴイ、農耕地にはチュウサギ、アマサギ、手賀の丘の森にはサシバなどが見られるでしょう。暑さ対策と水分補給を忘れずに。
解 散 正午
担 当 桑森

8月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 8月8日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 立秋とは名ばかりの暑さが続きますが、鳥の方は秋を感じているはず。移動途中のシギ・チドリとの出会いを期待しましょう。間もなくいなくなるオオヨシキリやコアジサシに挨拶しておきましょう。ヨシゴイがいるとよいですね。暑さ対策をお忘れなく。
解 散 正午
担 当 松田

シギチ探鳥会

期 日 8月29日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
交 通 自家用車に分乗です。同乗者は運転者に各1,500円をお支払い下さい。車を提供できる方はその旨ご連絡下さい。
案 内 行き先は茨城県稲敷方面です。シギ・チドリなどを探します。
持 物 観察用具、雨具、弁当(途中のコンビニで購入可)。
申 込 諏訪までメールまたはFaxで申込をしてください。
Fax: 04-7188-7137
担 当 諏訪、松本

白樺峠タカの渡り探鳥会

期 日 9月18日(土) 19日(日)
集 合 我孫子駅北口 午前6時10分
交 通 小型バス
案 内 今年のタカの渡り探鳥先は2年ぶりに信州白樺峠です。白樺峠は乗鞍スーパー林道途中にある峠で、タカ見の広場が整備されています。サシバやハチクマが松本平方面の山間や雲間から現れ、気流に乗って谷間

や頭上を流れていくのを観察し、上昇気流に湧き上るタカ柱を楽しみます。また、アオバト、ハリオアマツバメ、ホシガラスなども観察できます。天候に恵まれれば、千数百羽のタカの渡りに出会えるでしょう。(昨年と同 2 日間での観察記録データは 2,652 羽でした。)

- 持物 観察用具、防寒具、雨具、昼食(途中購入可)
 宿舎 奈川温泉 野麦荘
 Tel: 0263 - 79 - 2011
 参加費 20,000 円程度(交通費、宿泊費、保険料等)。(初日の昼食は各自負担)
 定員 20 名
 申込 申込は 8 月 1 日から受け付けます。下記までメールまたは Fax で申込をしてください。なお、旅行傷害保険申し込みの際年齢が必要になりますので年齢をお知らせください
 猪爪 Fax: 04 - 7186 - 5075
 桑森 Fax: 04 - 7182 - 3149
 担当 猪爪、桑森

ホタルの夕べ

- 期日 8 月 1 日(日) 雨天中止
 集合 東我孫子駅前 午後 7 時
 持参 懐中電灯、虫除け
 解散 午後 8 時
 案内 恒例の岡発戸・都部でのホタル鑑賞会です。谷津田は整備されてきて、水辺や湿地の生物も増えてきています。去年はヘイケボタルが 180 頭以上観察されました。今年はそれ以上観察されるのでしょうか。楽しみです。
 申込 不要
 担当 染谷、木村

映写会

- 期日 7 月 24 日(土) 午後 1 時 30 分 ~ 午後 4 時 00 分
 場所 水の館 3 階研修室
 案内 会員の撮った写真やビデオを映写して楽しめます。作品を発表する方は 7 月 17 日(金)までに、諏訪宛写真の種類、枚数またはビデオの上映時間を連絡してください。写真はスライド、デジタル画像のいずれでも構いません。但し、内容は鳥や動物など自然関連のものとし、一人 40 枚以内とします。デジタル画像ファイルは下記でお願いします。

メディア: スティックメモリー、CDR。

ファイルは一括コピーできるよう発表者名のついたホルダーに収納。

ファイル名: 番号・題名・撮影場所・日付・拡張子
 [例]

01 ムナグロ北新田 070501.jpeg(北新田で 07/05/01 撮影)

番号は映写順番号(昇順、途中の欠番可) 数字は半角 2 桁 1~9 は 01~09 とする。

画像サイズ: 800×600 ピクセル以内。

発表作品は当日持参してください。但し、デジタル画像は開始前にパソコンにインストールしておきますので午後 1 時までには持参、提出してください。

- 連絡先 諏訪哲夫 Tel: 04 - 7188 - 7137
 その他 映写会終了後恒例の納涼会(別途案内)があります。そちらも是非ご参加下さい。

担当 諏訪、吉田

納涼会

- 期日 7 月 24 日(土) 午後 5 時 30 分
 場所 「庄や」我孫子駅北口店
 我孫子市我孫子 1 - 1 - 1 6

Tel: 04 - 7185 - 3953

会 費 3,000 円

案 内 映写会後の懇親、暑気払いの会です。
今年も暑い夏がやって来そうです。
ビールを飲んで楽しいひとときを
過ごしましょう。皆さんふるってご
参加ください。

申 込 北原建郎まで
Tel: 04 - 7183 - 4683

担 当 北原、染谷

手賀沼学会開催のお知らせ

日時 7月3日(土) 13時~16時
会場 中央学院大学 30周年記念館 611教室
基調講演
講師 我孫子市教育委員会 辻 四郎氏
演題 「杉村楚人冠~我孫子と手賀沼を愛し
た文人~」

7月幹事会案内	
日 時	7月11日(日) 13:30~16:30
場 所	アビスタ 2階第4学習室
議 題	<ol style="list-style-type: none"> JBF参加内容の検討と担当について <ul style="list-style-type: none"> ・庭に鳥を呼ぶ ・パネル展示 ・定点探鳥会 ・船上バードウォッチングについて ・その他新企画 ほーほーどり 216号記載記事について 創立40周年記念事業について <ul style="list-style-type: none"> ・準備委員会報告
その他(議題を提出する場合は事務局にご連絡下さい。)	

行 事 報 告

4月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2010.4.11 9:00~12:00
曇りのち晴れ 気温 22

<認めた鳥>カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、トビ、ハヤブサ、キジ、クイナ、オオバン、コチドリ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、セッカ、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 39種

番外 コジュケイ、カワラバト

<探鳥班>大久保睦夫、間野吉幸、山口キイ、西巻実、松下勝子、諏訪哲夫、北原建郎、肥後邦彦、浅井久、西昭子、田中悟、六角昭男、

野口洋子、野口隆也、田中恒夫、松田幸保、武藤康之、猪爪敏夫、染谷良子、類地佑子、榎本右、田丸喜昭、田丸メリールイス、常盤孝義、中野久夫、西嶋昭生、松本葉子、松本勝英、川村美智子、川村美恵子、佐藤弘美、石渡成紀、鈴木静治、大矢篤、宮下三禮、河内悠太郎、天野正臣、小出夏妃、小出洋子、金子幸子、川越久枝、小玉文夫、西城猛、井上正(担当)野口紀子、小林寿美子 参加者 49名

<カウント班>木村稔、佐々木隆、染谷迪夫
調査日時 2010.4.11 9:00~12:05
曇り 微風 気温 18

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	8	10	18
カンムリカイツブリ	2	4	6
カワウ	28	47	75
ダイサギ	2	0	2
コサギ	0	1	1

コサギ	0	1	1
アオサギ	6	2	8
コブハクチョウ	25	3	28
マガモ	5	4	9
カルガモ	31	11	42
コガモ	47	26	73
オカヨシガモ	2	0	2
クイナ	2	0	2
バン	1	0	1
オオバン	36	20	56
セグロカモ	2	0	2
合計	197	129	326

5月手賀沼探鳥会とカウント

5月の定例探鳥会は「第21回バードウィーク手賀沼探鳥会」として実施いたしました

調査日時 2010.5.9 9:00~12:00

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、トビ、オオタカ、キジ、コジュケイ、バン、オオバン、コチドリ、タシギ、コアジサシ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計34種
番外 バリケン、カワラバト

<探鳥班> 佐々木隆、野口隆也、染谷迪夫、諏訪哲夫、小林孝夫、猪爪敏夫、宮下三禮、田中恒雄、染谷良子、金子幸子、野口紀子、谷山晴男、小島経一、山内雅量、高橋長久、古出洋子、野口洋子、佐々木凜太郎、品田清、小玉文夫、西嶋昭生、石渡成紀、松下勝子、栗田励、西昭子、池田日出男、小林秀美、六角昭男、大矢篤、河内悠太郎、桑森亮、松田幸保、村瀬和則、間野吉幸、天野睦子、天野正臣、澤田冴子 参加者37名

<カウント班> 木村稔、染谷迪夫、北原建郎
調査日時 2010.05.17 8:30~11:15
晴 強風 気温22

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	4	9	13
カワウ	25	36	61
タイサギ	0	1	1
アオサギ	6	9	15
コブハクチョウ	58	16	74
オオバン	0	7	7
コアジサシ	0	5	5
合計	93	83	176

筑波山探鳥会

5月1日

新緑の筑波山、鳥と花を楽しむ

大矢篤

朝から気持が良い快晴。筑波山探鳥会で天気が良いのは実に数年ぶりとのことで、幸先の良いスタートとなった。筑波山に到着すると本隊は早速登山を始めた。まず出迎えてくれたのはメジロとヤマガラ。姿は見られなかったが、春を感じられる囀りが足取りを軽くする。しばらく歩くとヤブサメの音が聞こえてきた。とても鳥とは思えない鳴き声で、鳴いている姿が想像できなくなった(笑)。カタクリ、ニリンソウなどの花を楽しみながら進んでいくとようやく次の鳥の姿・・・が、外来種のソウシチョウだった。綺麗に囀る姿をしばらく楽しませてもらったので、今回はよしとしよう(笑)。次はセンダイムシクイ、こちら長い間姿を見せてくれた。

頂上で二隊(登山の本隊とケーブルカーの別隊)が合流しハイキングコース(男体山の自然研究路)を一周するも鳥の囀りは聞こえず、代わりにスマレの仲間やニリンソウの群生など花に目を向け、植物に関して無知の僕には新鮮で物知りになった気分だった。

場所変わって、神社(薬王院)でお昼を食べていると、オオルリが姿を見せてくれた。急いで食事を済ませ皆で観察。声と姿が楽しめる贅沢な時間だった。帰りがけにはオオタカも飛び、最後まで楽しむことができた。

コルリやコマドリの声を聞けなかったのは

残念でしたが、植物を含めて大変充実した時間を過ごすことができました。

来年も皆で行きましょう。

【幹事報告】<認めた鳥>カワウ、チュウサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、オオタカ、ノスリ、サシバ、キジバト、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
計 37 種 番外 ソウシチョウ、コジュケイ
<参加者>青木典子、浅野利幸、天野睦子、市村偕子、大矢篤、金子幸子、川越久枝、桑森亮、古出洋子、古賀嗣朗、鈴木幸子、諏訪哲夫、田中功、畠中暁美、松下勝子、間野吉幸、松本勝英、松本葉子、宮下三禮、山住良子、類地佑子、渡邊成、(担当幹事)染谷迪夫、鈴木静治 参加者 24 名

軽井沢・菅平探鳥会

5月15日,16日

~ 早朝のアカゲラとの出会い ~

金子幸子

5月15日、寒さ対策をあれこれ準備し、我孫子駅に7時に集合。朝はさほど寒くなく、天気は上々、20名で出発。バスの中は早朝にもかかわらず元気いっぱい。高速に乗る頃にはスカイツリーが見えたり、富士山が左から右へと見え隠れしながら進む。妙義山が見える頃には、遠くに雪化粧した山々が見え始め、浅間も残雪の山頂より煙をはいている。途中、コンビニで昼食をゲット。軽井沢に着く頃には、桃、水仙、レンギョウ、山桜、しだれ桜の満開。花見がもう一度見られ、得した気分。72ゴルフの付近ではイワツバメ(岩の所にいるものと思っていました)が飛び交い、集合住宅の軒下にこれまたイワツバメさんの集合住宅。

11時30分頃に軽井沢野鳥の森のピッキ

オに到着。デッキに出てみると、キセキレイが目前で彩やかな黄で迎えてくれた。カワガラスも左から右へと飛び、早くて姿を追えない初心者のバードウォッチャーはいらいらする。

10名ずつ2班に別れ森に入る。爽やかな風、新芽の緑が清々しい。鳥の囀りも聞こえ、コゲラが枝をピョコピョコ登る。イナバウアーの姿勢でオオルリを見上げるが胸しか見られず、あのルリ色を見たい。昼食はミソサザイ休憩所で、早速名前のとおり本人(?)が出てくれた。どんぐり池ではオタマジャクシが玉砂利の様で、これが蛙に変わったらすごいだろうなあ。なかなか鳥が出ないので下山。しかし、残った人は2~3種は見たそうだ。やっぱり探鳥はせっかちではだめらしい。帰りのトンボ池では、キビタキが陽光の中でオレンジと黄の彩やかな姿を見せてくれた。3時半頃には各班集合。カモシカを見た人もいたとか。見たかったなあ・・・。

菅平の宿に入ると雪化粧した北アルプスの大パノラマが迎えてくれた。白馬、五竜、鹿島槍、立山、穂高など等、なんと素晴らしい景観。鳥はあまり見られなかったが疲れがとれた。

16日早朝は菅平湿原に。予報と異なり思ったより寒くなく、5時にバスに乗車。湿原は外周より回る。コムクドリがサッカー場の芝で朝食中。アカゲラの巣穴を見て木道に入る。カッコウやウグイスの囀りが響くが姿は見えず、残念。オオヨシキリに、アオジは黄緑の胸と翼の筋が陽光に映えて思わず見とれた。傾いた木道の下にはミスバショウの白が清々しい。

予定より早く元の場所に着いてしまったので、また木道に戻る。途中でアカゲラの情報を聞き、急いでそのポイントに向かう。丁度巣穴から顔を出し、目がくりくりしている。そのうちヒョウと穴から出て枝を登る。間にあって良かった。赤い蹴出し(和服の裾よけと隣人が言っていました)が彩やかな色。あー飛んだ、もう少し見たかったのに。時間がないが後5分待つことに。気持ちが通じたのか戻ってきてくれた。急いで集合場所に帰る。すると目の前をアカゲラが横切る。何でこんな時に出てくるの、もう少し前に出てくれれば、後ろ髪を引かれる思いで戻る。

朝食後は再び前日の軽井沢野鳥の森へ。今度は自由行動で、前日とは反対から沢沿いの山道を登る。せせらぎでヤマガラの水浴びを観察し、どんぐり池では何か鳥が木に隠れるが(本人は隠れているつもり)出てこない。アカゲラ休憩所で昼食。サンショウクイが出たとの情報で鶴留へ行く。声は聞こえるが姿は確認できず、残念。ミソサザイの沢ではやっぱりミソサザイが出てくれた。前方ではカケスも姿を見せたが、飛び去り、新人ではなかなか見つけられないのも仕方なし。

鳥合わせでは 53 種の鳥が居たそうです。私はそんなに数は見られませんでした。十分楽しめた旅でした。

軽井沢・菅平探鳥会に参加して

追い着けば先へ先へと啼くカッコウ

松下勝子

【幹事報告】<認めた鳥> アオサギ、カルガモ、マガモ、トビ、ノスリ、キジ、キジバト、カッコウ、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、サンショウクイ、ヒヨドリ、モズ、カワガラス、ミソサザイ、コルリ、マミジロ、クロツグミ、アカハラ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、オオヨシキリ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、メ

ジロ、ホオジロ、ノジコ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、イカル、ニュウナイスズメ、スズメ、コムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 53 種

<参加者>天野正臣、天野睦子、池田日出男、大久保睦夫、金子幸子、川上貢、古出洋子、古賀嗣朗、小玉文夫、小林寿美子、染谷迪夫、田中功、中野久夫、松下勝子、松田幸保、松本勝英、間野吉幸、山住良子、(担当幹事) 諏訪哲夫、桑森亮 参加者 20 名

「葛西臨海公園探鳥会」は中止しました

4月17日(土)実施予定の「葛西臨海公園探鳥会」は前日の天気予報が悪天候(午前は雨が残り、風が6メートルの強風との予報)のため、中止と致しました。なお当日の午前は「みぞれ」という異常気象でした。三日前の下見ではミヤマホオジロも入り、大いに期待されましたが中止となり、参加予定の24名の皆様には大変残念なこととなりました。

担当：桑森、野口

鳥 だ よ り

		花穂を食べに出る	鈴木静治
03.22 [江蔵地]	ヒ ²	鳴きながら上空を飛ぶ	鈴木静治
03.22 [江蔵地]	ヲ ¹	草地を低空飛行	鈴木静治
03.22 [江蔵地]	ヲ ¹	カラスに追われ木より飛び出す	鈴木静治
03.22 [江蔵地]	ハ ³	草藪より柳の	
03.23 [北新田]	ハ ¹	電柱上	中野久夫
03.23 [北新田]	ヲ ¹	電柱上	中野久夫
03.25 [北新田]	ハ ²⁰	4号排水路上	中野久夫
03.26 [千間橋]	ヒ ¹	手賀川上を飛ぶ	鈴木静治

- 03.26 [千間橋] ㇿㇿㇿ(1) 上空を飛
ぶ 鈴木静治
- 03.27 [北新田] ㇿ(1) 河川敷柳上
中野久夫
- 03.27 [北新田] ㇿ(1) ㇿ原上物色飛翔
中野久夫
- 03.27 [北新田] ㇿ(5) 耕田水たまり
中野久夫
- 03.28 [泉] ㇿ(1) 12:18、上空を巡回
飯泉仁・久美子
- 03.28 [大井新田先手賀沼] ㇿ(1)
11:26、葦原で鳴きながら移動
飯泉仁・久美子
- 03.28 [高野山新田手賀沼遊歩道] ㇿ(1)
14:19、上空を飛翔
飯泉仁・久美子
- 03.30 [北新田] ㇿ(3) 休息
北原建郎
- 03.30 [高野山新田] ㇿ(1)樹上で採餌
田中功
- 04.01 [中原] ㇿ(2) 9:57~10:06、上空を
鳴きながら移動、雄と思われる個体がキ
ィィィと鳴き、雌と思われる個体を追尾
飯泉仁
- 04.01 [北新田] ㇿ(1) 電柱から飛去
中野久夫
- 04.03 [下沼田] ㇿ(3) 小川の枯れた葦
にとまる 鈴木静治
- 04.03 [下沼田] ㇿ(1) 電柱上にとまる
鈴木静治
- 04.06 [布佐平和台] ㇿ(2) 枝を啜え樹
に飛び込む、樹の枝のとまる 鈴木静治
- 04.08 [布佐平和台] ㇿ(2) 2羽
が上空を飛ぶ、カラスがそれに飛び込む
鈴木静治
- 04.09 [発作] ㇿ(1) 上空でカラスの攻
撃を受ける 鈴木静治
- 04.10 [布佐平和台] ㇿ(3) 調整池を
鳴きながら飛ぶ 鈴木静治
- 04.11 [手賀沼] ㇿ(1)
染谷迪夫・木村稔・佐々木隆
- 04.11 [手賀沼辺] ㇿ(2)
染谷迪夫・木村稔・佐々木隆
- 04.12 [北新田] ㇿ(1) 採餌
中西榮子
- 04.13 [我孫子] ㇿ(1) 電中研斜面林で
囀り 中野久夫
- 04.15 [北新田] ㇿ(2) 畦上
中野久夫
- 04.17 [片山新田] ㇿ(1) 15:15、電柱の
天辺に止まり、その後ㇿの追尾を受け
て上空を巡回 飯泉仁・久美子
- 04.17 [千間橋] ㇿ(1) 上空でカラスの
攻撃を受ける 鈴木静治
- 04.20 [新木] ㇿ(2) 造成地の草むら
で鳴く 鈴木静治
- 04.22 [都部] ㇿ(1) 上空を飛び去る
鈴木静治
- 04.25 [手賀] ㇿ(1) 10:20、県道脇の電
柱に止まっていた 飯泉仁・久美子
- 04.25 [鷺野谷] ㇿ(1) 10:10、県道脇の
電柱に止まっていた 飯泉仁・久美子
- 04.25 [下沼田] ㇿ(3) 枯れた葦の中
で鳴く 鈴木静治
- 04.27 [北新田] ㇿ(1) 水張り田の
畦上、2羽のㇿと一緒に 中野久夫
- 04.30 [寿] ㇿ(1) 囀り 平岡考
- 05.01 [発作] ㇿ(1) 9:00~10:03、
土起しをした水田で餌を物色していた
飯泉仁・久美子
- 05.05 [北新田] ㇿ(1) ㇿの群れ
中 中野久夫
- 05.10 [緑] ㇿ(1) 鳴き声(囀り)
鶴見みや古
- 05.13 [下沼田] ㇿ(1) 上空を通
過 鈴木静治
- 05.13 [北新田] ㇿ(1) 利根川河川敷で
鳴き声 中野久夫
- 05.16 [江蔵地] ㇿ(1) 利根川よ
り飛び電柱上に留まる 鈴木静治
- 05.17 [東中新宿] ㇿ(1) 8:12、西方向か
ら高さ10m前後で出現し、東方向に移動
飯泉仁
- 05.17 [高野山] ㇿ(1) 鳴き声(囀
り) 小林さやか
- 05.19 [布佐平和台] ㇿ(1) 鳴き声が
聞こえる 鈴木静治

今回寄せられた鳥の全種名

<山野の鳥>

アオジ、アオバズク、アカハラ、ウグイス、
エナガ、オオジュリン、オオタカ、オオヨ
シキリ、オオルリ、オナガ、カケス、カッ
コウ、カワセミ、カワラヒワ、キジ、キジ

バト、コイカル、コゲラ、サシバ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズメ、セッカ、センダイムシクイ、タヒバリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツバメ、ツミ、トビ、ノスリ、ハクセキレイ、ハシボソガラス、ハヤブサ、ヒバリ、ヒヨドリ、ベニマシコ、ホオアカ、ホオジロ、ホトトギス、ミサゴ、ムクドリ、メジロ、モズ。 計 47 種

<水辺の鳥>

アオサギ、アマサギ、ウズラシギ、オオバン、オカヨシガモ、オジロトウネン、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カンムリカイツブリ、キアシシギ、キョウジョシギ、クイナ、コアシサシ、ゴイサギ、コガモ、コサギ、コチドリ、コブハクチョウ、シマアジ、セイタカシギ、セグロカモメ、ダイサギ、タカブシギ、タシギ、チュウサギ、チュウシャクシギ、トウネン、ハイイロヒレアシシギ、ハシビロガモ、ハマシギ、バン、マガモ、ムナグロ、ユリカモメ。計 35 種

合計 82 種

<番外種>

アイガモ、カワラバト、コジュケイ、バリケン

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉久美子	1
飯泉仁・久美子	198
飯泉仁	299
猪爪敏男・川田光男・谷山晴男・鈴木静治・間野吉幸	18
北原建郎	1
桑森亮	2
小林さやか	1
首藤佑吉・美恵子	1
鈴木静治	56
諏訪哲夫	1
染谷迪夫・木村稔・佐々木隆	17
田中功	18
鶴見みや古	1
中西榮子	2
中野久夫	96
平岡孝	4
総計	716

(諏訪哲夫)

ルリカケスの島を訪ねて

諏訪 哲夫

ルリカケスに会いに 4月7日から 2泊3日で奄美大島に行ってきました。今回は Y 社の個人型ツアーで行ってきました。

JAL の 1953 便は定刻の 11 時に奄美空港に着きました。空港にはガイドをしてくれた T さんが出迎えてくれました。個人型ツアーといっても 2, 3 人が参加するツアーと思っていましたがそうではなくて参加者は私一人で島一番の野鳥通の T さんが 3 日間ガイドをしてくれるという非常に贅沢なツアーでした。

空港近くの芝生の広場で早速ムネアカタヒバリに出会えました。まずルリカケスを探しましょうと T さんが案内してくれたのは元ペンションがあったという高台でした。ここで初めてルリカケスを見たのでシャッターをやたらに切りましたが後からもっと近くで沢山撮れたので殆ど消してしまいました。

昼食は奄美の郷土料理の鶏飯(けいはん)を食べました。あっさり味でとても美味しかったです。

続いて自然観察の森に行きました。ここは奄美で一番のポイントと聞いていたので期待して行きました。ここには小さな水場があり、ルリカケスが何度も現れて楽しませてくれました。近くでアカヒゲの鳴き声が盛んにするのでTさんと探しましたが見つかることはできませんでした。結局アカヒゲは滞在中姿を見ることが出来ず唯一の心残りになりました。宿には5時頃引き上げました。

今回の宿舎は「ウェストコート奄美」で小綺麗なホテルでした。夕食はお手頃な料金だったのでホテルのレストランで食べました。夕食後ナイトウォッチングに出かける予定でしたが雨が降ってきたのでこの日は中止になりました。

2日目は朝探に出かける予定でしたが雨が上がらないので朝探は翌朝おこなうことにし、9時にホテルを出発しました。まず自然観察の森に行き、午前中はここで粘りました。ルリカケスは何度も出てくれましたが他の鳥達は姿を見せませんでした。

午後は役勝川河口に広がるマングローブの原生林に向かいました。途中内海海岸でコクガン、クロサギ、カンムリカイツブリを見ることができました。この原生林は日本で2番目に広大なマングローブの原生林で素晴らしい景観でしたが鳥影は薄かったです。一旦ホテルに戻り、夕食の後ナイトウォッチングに出かけました。驚いたのはウォッチングの方法でTさんは車を片手で運転しながら片手を窓から出して強力ライトで周りを照らして鳥を探してくれたことです。この方法は余ほど慣れた人でなければ出来ないと思いました。出かけた場所は三太郎林道でお目当てはリュウキュウコノハズクでしたが姿は一寸だけ見ただけで鳴き声は何度も聞くことが出来ました。アオバズクもいましたが写真はうまく撮れませんでした。22時にホテルに戻りました。

3日目は5時半スタートで朝探に出かけました。行き先は朝戸林道というところで狙いはオオトラツグミの鳴き声を聞くことでした。かなり探してやっと鳴き声を聞くことが出来ました。トラツグミの鳴き声とは全く違う鳴き声でした。同じ場所でカラスバトを見ることが出来ました。

ホテルに9時に戻り、朝食の後10時半に出発して自然観察の森の水場に行きました。到着するとオーストンオオアカゲラがすぐ近くで鳴いていました。暫くするとルリカケスが水浴びにやってきました。そしてその直後に近くの枝で雌雄が求愛給餌行動をしたのを運よく撮ることが出来ました。こんな場面は滅多に見れないとTさんは言っていました。この後盛んに鳴いているアカヒゲを探しましたが枝の陰に隠れていて姿を見ることはできませんでした。

15時にここを引き上げて空港近くの砂糖キビ畑でミフウズラを探しましたがいませんでした。この時期はトウキビの収穫が終わった後で畑の見通しが良くてミフウズラはなかなか出てこないということでした。ミフウズラは西表で見損なったので見たかったのですが今回もご縁がありませんでした。

最後に大瀬海岸にクロツラヘラサギが出ているというので行ってみました。2羽いて1羽は夏羽で胸元が薄いオレンジ色になっていました。空港には予定の17時に着き、ここで3日間お世話になったTさんと別れました。19時発のJAL1958便で奄美を立ち羽田には定刻の21時5分に到着しました。

今回Y社の個人型ツアーに参加して何よりよかったのは奄美の野鳥に非常に詳しいTさんがマンツーマンで案内してもらったことで、お陰で奄美の野鳥を堪能することが出来ました。機会があればまた奄美を訪れて今度はアカヒゲをゲットしたいと思います。

以上

ライチョウ撮影記

大久保 陸夫

4月23日深夜11時、池袋から高速バスに乗り、翌朝、室堂に着いたのは午前9時頃。私は観光ツアーで黒部までは行ったことはあるけれど、室堂は初めて。まして、立山登山の経験はない。

室堂の駅舎を出た途端、目の前に真っ白な雪景色が見え、更にそそり立つ立山連邦の雄大な景色が見える。まず感動。

とりあえず、今夜、宿泊予定の「みくりや温泉」に荷物を預け、早速ライチョウを求めて出発。宿から約200m位離れたところに数人のカメラマンらしい人だけが見える。近寄って行くと案の定そこにライチョウがいた。真っ白な雄・雌が眼前にいるではないか！雄の目の上には鮮やかな赤い肉冠が見える。興奮！興奮！次いで反射的に連射！連射！

このように、いとも簡単に合いまみえるとは、思いもよらないことだった。出発前は、ライチョウはどういうところにいるのだろうか？白い雪に白い姿ではどのようにして見つけるのだろうか？写真は撮れるのだろうか？フィルターは必要か？露出補正は？などなど、思いめぐらし、不安はつまった。

ところが、来てみると、いとも簡単に出会えて、なおかつ写真が撮れる現実。夢ではないか？人を怖がらないため至近距離で撮れるライチョウの優雅さには驚きと感動を覚えた。余裕ができ、周囲の人だけに注目。軽装の若い女性が携帯電話での至近距離からの撮影。

一方、こちらは重装備に加えて重い500mmの一眼レフをかかえ、至近距離のためハイテクカメラの扱いに苦悩する。たしかにコンデジで十分撮れる、このやるせなさ。

昼食後、雷鳥荘の近辺に場所をかえる。岩場にはイワヒバリ・カヤクグリの姿がチラホラ。至近距離で写真が撮れる。あらためて、山の鳥の人なっこさを感じる。

ここで、思いもかけず、我が身にアクシデント発生。最初はカメラを上を持ち上げるのが辛くなる。次いで、全身の筋肉に脱力感があり、疲労感が強い。息をするのが苦しい。しばし岩場に寄り掛かって休む。深呼吸を繰り返す。少し楽になる。イワヒバリが怖がらずに、私の傍に寄ってきて、哀れむかのようにじっと私をみつめている。私はけだるく、なすすべもなく、ただ呆然とイワヒバリを見つめるのみ。

これではいけないと、宿に帰ることにした。足がもつれて歩きにくい。酔って千鳥足のような感じだ。息が苦しい。酒に酔った気分？だったらよいのだが。坂を登るのが辛く、後ろへ引っ張られる感じがして怖い。10歩前進したら深呼吸を10回位。そんなことを繰り返し、なんとかやっと宿へたどり着き、ホッとす。横になり休養。1時間位休んだら回復。生き返った感じがする。

どうやら2450mの高地で酸欠をおこしたらしい。私は山登りはほとんど経験がなく、初めて高い山の恐怖を味わい知った。ここで私のあたりまえの反省。山を甘く見るな！自分のペースをわきまえる！帰路は、黒部を通り、信濃大町経由で無事帰ってきた。

アクシデントはあったけれど、初めてのライチョウとの劇的な出会いに、十分満足できた鳥見撮りでした。

新会員紹介 小林孝夫（我孫子市在住）

寄付のお礼 山野辺伸作さんよりご寄付を頂戴しました。
厚く御礼申し上げます

PACIFIC NORTHWEST への鳥追いの旅 (1)

田丸 喜昭

2010 年 4 月下旬から 5 月中旬まで、アメリカの北西部海岸（ワシントン州西海岸）とオレゴン州（内陸のカスケード山脈）を旅することにした。北南米大陸の太平洋西海岸は、アルゼンチンからアラスカにかけて、鳥が季節移動をするパシフィック フライ ウエイ PACIFIC FLY WAY と呼ばれる主要な「渡りのルート」になっていて、私と家内のメリールイス（以下 ML）は、越冬し、繁殖のために北へ旅立つ鳥たちや、南から渡ってきて、この地で繁殖をする鳥達の移動の季節にあわせて、16 日間と走行予定距離を約 2500k m の計画をたてた。

前回の旅と同様に、航空会社、レンタカー会社や宿泊施設の手配と予約は、すべて自分が行った。宿の予約のホームページの入力の仕方が宿泊先により、それぞれ違っていたので、トラブルも多かったが、これも旅の楽しみのうち。訪問地で見られる鳥のチェックリストも準備した。私にとって、アメリカへの旅は、前回のアイオワ州への旅から丁度 10 年目になる。

4 月 24 日(土)、成田を午後 4 時半に出発し、シアトル・タコマ空港に、同じ日の午前 8 時 45 分に到着。日本との時差は 18 時間。レンタカー会社に行き、MERCURY Grand Marquis S を受取る。私の日本で乗るクラウン アスリートよりも二廻りほど大きいアリゾナ州ナンバーの車だ。空港から 100 キロ先のこの日の宿泊地オリンピア（ワシントン州の首都）を目指して高速道路 INTERSTATE 5 号線（現地の人たちは I-5（アイ ファイブと呼ぶ）を南下する。各車線幅が広く、片側 3 - 4 車線ある道を、時速 100 キロで、久しぶりの右側通行で走る。この辺の気候は、太平洋の湿気を含んだ気流が、オリンピア半島や、内陸の山並にぶつかり、低い雨雲が発生し天候がとても変わりやすく、走行中に、大雨になったり、小雨になったり、青空が現れたりした。気温も日本より大分低い。私たちの訪問予定地域は、北緯 47 度から 44 度で、極東でいえば、ロシアのナホトカとハバロフスクの地帯と同じだが、こちらの海岸線地帯は暖かい太平洋海流のため極東ほど気温は下がらない。

古い州会議事堂に近いガバナー ホテルに到着。インターネットでホテルの予約をすると、ホテルまでの道路案内も手に入るので便利だ。ホテルから見下ろす中型の湖で、カモメや他の鳥が沢山飛んでいるが、時差の関係で頭がさえず、天候が不順、気温も 10 度前後なので、外には出なかった。町で一番大きい本屋にでかけ、ナショナル ジェオグラフィック社刊の鳥の最新しい図鑑（第 5 刊）を求めようとしたが、在庫がなかった。デローム社の発行する、ワシントン州とオレゴン州それぞれの詳細な道路地図を買う。日本では、一枚の地図に全州が表示されている簡単な地図しか買えなかったので、新しい詳細地図は、この旅の重要な資料になる。支払に米ドルの旅行者用小切手を出したら、若い女子店員が、受取ったことがないのでといい、あちこちに電話をかけた挙句に、上司の許可を得て受取ってもらった。この日の運転距離は 100 キロ。

ホテルには、レストランがなく、近所のダウンタウンに沢山あるといわれ、町に出た。あまり大きい町ではないが、大勢の人たちが道路に溢れていた。この日は、毎年春先の土曜日夕刻に開かれる春の到来を喜ぶ仮装パレードが町の中心部を練り歩く行事があり、それを見

に出てきた人々だ。パレードには 1000 人ほどの人が参加し、何千人かの見物客が、町の歩道を埋めている。パレードの参加者は、数人のグループから、大勢のグループで構成され、それぞれ自分で用意した仮装衣装をまとい、町の中心部の通りを思い思いのパフォーマンスで練り歩く。最後尾には、100 人ほどの同じ衣装をまとった人々が、日本の阿波踊りのようには整然とはしないが、管楽器や打楽器にあわせて同じ調子で練り歩き、その後ろには、多数の一般市民が、これをまねして同じように踊りながら付き従っていた。パレードが終わり、ホテル近くのイタリアレストランで夕食をとる。ここでも、旅行者小切手を受取ったことがないそうだが、マネージャーが、受け取りましょうといってくれた。アメリカ社会は、すっかりとクレジットカード時代に入っているであろう。

4 月 25 日(日)。シアトル方向に 13 キロほど戻ったニスクオリー国立自然生物保護区 (National Wildlife Refuge 以下 NWR と略す)。ここは、プロジェクト サウンド(入江)の一番奥で、淡水と海水が交わる地域で、池、針葉樹林、デルタの草原があり、春秋の鳥の渡りの季節には、休息と採餌の場所として、冬鳥は越冬場所とし、夏鳥は繁殖の場所とし年間を通じて利用されている重要な保護区だ。案内所、資料館、2.4 キロのトレイル(歩行通路)が整っていて、保護区内を巡回する職員も見かけた。ここで、新刊の図鑑を求めることができたが、旅行者小切手での支払では、また担当者と会話をしなければならなかった。ここを訪れる一般の人々は、双眼鏡を携帯している人も多いが、望遠鏡を持っている人はほとんどいない。

NWR は米連邦政府の内務省と魚類・野生生物管理庁が運営し、全米に 500 箇所以上設置され、年間 4 千万人の利用者がある。情報は、<http://refuges.fws.gov/>で得られる。各保護区は、広大な敷地の中にあり、全米での総面積は 2100 万エーカーあり、ロードアイランド、コネティカット、デラウェア、ハワイ、マサチューセッツとニュージャージー各州の合計面積を上回る規模である。

到着直後、コマツグミ AMERICAN ROBIN♂の表敬を受け写真を撮る。この鳥は、この旅では一番多く見かけた。次がムラサキツバメ TREE SWALLOW。枯れ木の穴に巣作りをするが、その写真も撮れた。事務所棟の裏に細長く延びる池には、クビワキンクロ RING-NECKED DUCK。アメリカオシ WOOD DUCK。オオギアイサ HOODED MERGANSER のつがい。ヒメハジロ BUFFLEHEAD。ホオジロガモ COMMON GOLDENEYE。カワアイサ COMMON MERGANSER。カナダガン CANADA GOOSE も何羽か姿をみせた。カナダガンは、あちこちで沢山見ることになる。草原に出て、チシマシギ ROCK SANDPIPER、ハマシギ DUNLIN の小さい群が忙しそうに採餌している。小鳥類も樹林の中を飛び回っているが、慣れていないせいもあり、識別が難しい。キツタアメリカムシクイ YELLOW-RUMPED WARBLER、ウタズメ SONG SPARROW、キガシラシトド GOLDEN-CROWNED SPARROW、ハゴロモガラス RED-WINGED BLACKBIRD、テリムクドリモードキ BREWER'S BLACKBIRD などは、その日の夕刻、宿に戻ってから記憶をたどり、図鑑を見ながら判定記録した。距離はあったが、何種かのカモ類も草原で見た。

ML は、この保護区でもっと時間をかけて探鳥することを希望したが、夕刻までにまだ距離がある次の目的地に到着するために、ここを切り上げて出発することにした。

オリンピアから西へ延び、北上する国道 101 号線(海岸線に沿ってカリフォルニア州まで延びている)。国道は、日本でいえば、一般国道で、町の中を通り、交差点や信号もある。町の外は、時速 88 キロ、町に入ると 70 キロ、町中は 56 キロ、学校付近は 40 キロのスピード制限があり、道路の地形により、制限速度が設定されている。フードスポーツの町から西へ入った次の目的地のカッシュマン湖州立公園 (State Park - 以下 SP) へ向かう。この周辺から、オリンピック半島の大部分と太平洋岸が、オリンピック国立公園とオリンピック国立森林区に入り、半島中心部に標高 2430 メートルのオリンパス山と 2000 メートルを越す山々

がそびえ、私達の訪問時には、山々の上半分は雪で覆われていた。ここは、北米でもトップクラスの樹齢千年をこえるヒマラヤ杉、マツ科のトウヒ、カナダツガ、モミなどに囲まれた、人手の入らない原野・原生林が占め、雪解け水に恵まれた透明の湖が点在している。

カッシュマン湖は、地図からは判別できないが、周囲が急斜面の雨林にかこまれ、鳥を見るのには適してないので、近道の未舗装林道を通り 101 号線に戻る。この林道に沿った地域は、伐採作業が進められ、開けた場所が多くあり、鳥の姿を眺めることができた。北東に進み、次の**プリノン SP**の道路わきのスナックで昼食。ここは、目の前にプロジェクトサウンドとつながる細長い海水の入江だが、名前はフード運河と名づけられている。食後、海岸に近い公園に出たが、駐車場の前の小さい川には橋がなく海岸線まで渡れないので、周囲の藪の鳥を眺めてから北上し、州道 20 号線へ入り、この日の宿泊地で半島の先端にあるポートタウンゼンドに向かった。この町は、19 世紀初頭から港町として栄え、近くに三ヶ所の現在は史跡となっている砦(軍事拠点)が残されている。私達の宿泊場所は、マンレサ キャッスルというホテルで、この町の第一代町長が丘の上に建てた歴史的な建物だ。今日の運転距離は 221 キロ。

ホテルのバーでは、ホテルのレストランから食事が注文できるので、地元で醸造されるビール(発泡性の少ないエールタイプ)などを飲みながら、オレゴン州産牧草肥育の若齢牛のミディアムレアーステーキを食べた。長年食肉関係の仕事をしていたが、こんなに旨いステーキは初めて食べた。(次号へ続く)

会 員 便 り (ab-yacho より)

【北新田】

昨日(18日)から北新田の田植えが始まりました。

- ・今春のムナグロの初認は4月7日の1羽、チュウサギも7日の2羽でした。また、セッカの囀りも7日から聞かれるようになりました。
- ・3月30日から昨日(18日)まで、2号排水路でシマアジ♂1・♀2がみられていましたが、今日の観察中は見られませんでした。
- ・17日と18日にはセイタカシギ2羽が水張り田に来ていました。
- ・タカブシギが15日は2羽、18日は1羽が水張り田の畦で見られました
- ・13日、電中研の斜面林でオオルリがきれいな声で鳴いていました。

(2010.04.19 中野久夫)

北新田の田植えは殆ど終わり、あと数枚残すだけになりました。

- ・昨日(5/13)からカッコウの鳴き声が聞かれるようになりました。
- ・シギ・チの春の渡りもそろそろ終わりに近づきました。今までに見られた最多はムナグロ140(5/6)、キョウジョシギ15(5/5)、オジロトウネン1(4/27)、ウズラシギ1(5/5)、タカブシギ7(4/22)、キアシシギ6(5/6)、チュウシャクシギ4(4/24)、セイタカシギ2(4/17)(注)カッコ内は見られた月日であり多くありませんでした。
- ・3/30から見られたいたシマアジ3羽(♂1♀2)は4/27まで滞在していました。
- ・オオヨシキリの鳴き声ギョギョシは4/25から聞かれるようになりました。

(2010.05.14 中野久夫)

【我が家のシメ子ちゃん】

我が家の人気者シメ子ちゃんはまだ北へ帰らず餌場に通ってきています。昨冬は4月23

日から姿を見せなくなりましたから旅立ちが近づいてきたようです。昨年 11 月 1 日に鳴き声を聞いてから約半年楽しませてもらっています。旅立ちが近づくとシメ子ちゃんは何故か複数になります。この 2,3 日は 3 羽のシメが餌場に来ています。多いときは 5 羽くらい現れたことがあります。その時はあちこちシメだらけという感じでした。シメ子ちゃんは毎朝庭でピチピチ鳴いているので我が家では人相（鳥相かな）の悪いアイドルです。沢山餌を食べて無事に北国へ帰ってほしいと思っています。（2010.04.20 諏訪哲夫）

一冬楽しませてくれたシメが 5 月 3 日から姿を見せなくなりました。今年は例年より遅い旅立ちでした。昨年は 4 月 23 日でしたから 10 日はど遅い北帰行でした。これも 4 月が例年より寒かったからでしょうか。来冬も我が家の餌場に元気な姿を見せてくれることを期待しています。（2010.05.07 諏訪哲夫）

【ジュウイチ】

今日日中、鳥研でジュウイチが鳴きました。11～12 時ごろに断続的にしかし繰り返し鳴き、多くの所員が聞きました。びっくりしました。遠い声ではなく、鳥研の裏山で鳴いているようでした。我孫子野鳥を守る会の 30 年のまとめにも、我孫子市の自然環境の報告書にもジュウイチは出ていないようです。オオルリやコルリが托卵相手ですので、もちろん我孫子では通過鳥でしょうが、秩父あたりまでの交通費が節約できた感じです。

（2010.05.31 平岡考）

平成 22 年度定期総会 が開催されました

平成 22 年 4 月 11 日(日)午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分水の館において平成 22 年度総会が開催されました。平成 21 年度事業報告および平成 21 年度決算報告、平成 22 年度事業計画案および平成 22 年度予算案について提案説明があり、討議の結果原案どおり可決されました。総会出席者は 31 名でした

平成 22 年度事業計画

1. 探鳥会の実施

- ・ 定例手賀沼探鳥会
手賀沼をフィールドとして、原則毎月第 2 日曜日に開催します。
- ・ 遠出探鳥会
日帰りで近県等へ出かける探鳥会を 8～10 回程度、1泊 2 日の探鳥会を 3～4 回実施します。
- ・ 第 21 回バードウィーク手賀沼探鳥会

「Enjoy 手賀沼！」のイベントの一つとして実施されます。我孫子市鳥の博物館と当会との共催です

- ・ 市民手賀沼探鳥会
我孫子市環境レンジャーと当会との共催です

2. 野鳥等の調査及び保護等

- ・ 手賀沼水鳥カウント
手賀沼で見られる水鳥の種類と個体数を毎月 1 回調査します。1977 年から実施しており、今年は 34 年目になります。
- ・ データベースの整備
手賀沼水鳥のカウント及び会員から寄せられた鳥情報によるデータベースの構築を引き続き継続します。
- ・ 傷病鳥の保護等
市内外で発見された傷病鳥や幼鳥などを保護・飼育し、快復すれば放鳥します。（県鳥獣保護ボランティアの活動の一環）

3. 環境保全活動

- ・ クリーン運動に参加

例年の手賀沼ふれあい清掃に参加するほか、本年度も当会の行事として手賀沼探鳥会の観察ポイント（沼の南岸）を中心にクリーン作戦等を行います。

- ・美しい手賀沼を愛する市民の連合会の活動に参加
同会の構成団体として、手賀沼の浄化活動等、積極的にその活動に参加します。

4. 広報活動

- ・会報の発行、配布
会報「ほーほーどり」を隔月に発行・配布して会員間のコミュニケーションをはかります。又、会報は公共機関、学校、友好団体等に贈呈し、当会のPRと野鳥保護思想の普及に役立てます。（発行部数 300部）
- ・ホームページの運営
内容をより充実いたします。
- ・メーリンググループの運営
会員相互間のホットなコミュニケーションの場として、参加者の増加を図ります。
- ・取材対応
当会の活動内容や手賀沼周辺の野鳥情報などの発信のため取材対応に来るだけ対応します。

5. 啓発活動

- ・探鳥会の指導
学校や他の団体から、手賀沼周辺の鳥の観察指導の依頼を受けた場合は、可能な限り対応します。
- ・对外発表など
当会の活動内容を積極的に外部に情報発信します。

6. その他

- ・映写会、勉強会の開催
会員が撮影した野鳥や昆虫、植物などの写真、ビデオなどを観賞すると共に、識別や生態などの勉強の機会とします。
- ・行政の委員会などへの協力
行政機関の各委員会、意見交換会などには積極的に参加し、意見を提出します。
- ・会議の開催

定期総会（4月） 幹事会（年六回）を定期的で開催し、会運営上の諸問題を検討、処理します。

- ・会員の親睦行事
季節に応じ、適切に行事を計画して会員の親睦などを計ります。（納涼会、芋煮会など）
- ・2012年は当会創立40周年になります。創立40周年記念行事としての準備委員会を立ち上げます。（内容については、幹事会に諮って検討）

平成 21 年度決算および平成 22 年度予算

（単位円）

	21 年度決算	22 年度予算
収入の部		
会費	319.000	300.000
行事収入	1.125.940	1.500.000
ピット受託	126.000	0
その他収入	83.367	0
前年度繰越	221.718	165.331
合計	1.876.025	1.965.331
支出の部		
野鳥の部	1.118.214	1.540.000
環境保全の部	3.368	10.000
啓発活動の部	212.038	250.000
庶務の部	69.874	101.000
その他費用	7.200	50.000
別途積立金	300.000	0
次期繰越金	165.331	14.331
合計	1.876.025	1.965.331

平成 22 年度下期行事予定

期日	行事
10/10(日)	手賀沼探鳥会・カウント 手賀沼クリーン作戦
10/23(土) 24(日)	ジャパンバード フェスティバル
11/14(日)	手賀沼探鳥会・カウント
11/27(土) 28(日)	福島潟探鳥会
12/05(日)	手賀沼ふれあい清掃
12/12(日)	手賀沼探鳥会・カウント
12/19(日)	芋煮会

12/26(日)	湊沼探鳥会
01/03(月)	小見川・神之池探鳥会
01/09(日)	手賀沼探鳥会・カウント
01/16(日)	銚子カモメ探鳥会
01/30(日)	市民手賀沼探鳥会
02/06(日)	井頭公園探鳥会
02/13(日)	手賀沼探鳥会・カウント
02/26(土) 27(日)	福島市小鳥の森探鳥会
03/13(日)	手賀沼探鳥会・カウント
03/20(日)	北本自然公園探鳥会

会員から寄せられたお便りの紹介

今年はもう少し我孫子に行きたいと思っています。やっぱり定例は基本ですよね！

小林秀美

ユウレイ会員で申し訳ございません。

会報と ML は楽しく拝見させて頂いております。
工藤泰恵

5月幹事会報告

日 時 5月9日(日) 13:30~16:30

場 所 こもれび 会議室 1

1. H22年度下期行事予定を決定
 2. 会報215号記載記事について検討
 3. 創立40周年記念行事準備委員会を発足させることとした。
 4. 2010年JBFへの出展内容の新たな提案、アイデア等を啓発チームで検討し、次回幹事に提案してもらう。
 5. 手賀沼流域フォーラム地域企画への参加
11/21(日)に手賀沼親子探鳥会を昨年同様に実施する。
 6. 市民活動フェア in あびこ 2011は2011年6月実施予定。佐々木、浅井が担当
 7. 事務局から役員等の名簿、役員分担が提案され了承された。
 8. 報告事項
 - ・ 景観形成市民会議よりの探鳥指導の依頼があった
 - ・ 長寿大学での探鳥指導の依頼があった
- 10/29(金)10時~12時、岡発戸・都部谷津田の観察を行う。

ほーほーどり No. 215 (2010年7~8月号)

発行 2010年7月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel: 04 7182 3972

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円(大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)